

長~い休校！ 家庭学習 どうしよう？



夕方は日記タイム

「外出自粛」や休校が長期化し、生活の困窮や先行きの不安もあり、親も子も、心労が絶えません。そのうえ、新学年での長期休校で勉強は全部、家庭学習に…。さあ、どうしよう？ と、「困った」の声がたくさん寄せられています。現役の先生(仮名)にアドバイスをもらいました。

小学校編

感性を育てるチャンスに

鈴木綾香さん(小学校教諭)

子どもたちは、今回、「詰め込み勉強」から、ちょっと離れるチャンスです。感性を育てる生活体験を意識してみてください。

私は3年生を担当しています。学校ではこの時期、種まきをします。種をまいて、水をあげて植物を育てる。土に触れて、昆虫を探したり、自然に目を向けて細かいことを観察する体験をします。社会科学でも身近な地域のようすを調べたり、自分の世界だけでないものとの出会いを探求します。とくにこの時期は、

子どもたちは、今回、「詰め込み勉強」から、ちょっと離れるチャンスです。感性を育てる生活体験を意識してみてください。

答えよりも探求を

学校では、「答え」を知る授業ではなく、その年齢の発達を促進する授業をおこなっています。

例えば算数の割り算も、ポンと「答え」や結論を知ってしまうのではなく、どんなふうに見えるのかの探求を大事にします。なんでだろう？

とか、まわりの友だちはどう考えたのかを話し合いながら、答えを考え出していく。学び合いながら、日々わかっていく喜びを体験します。家庭学

習のときも、「どうしてそう考えたのか」「私はこうしてみた」など、話し合ったり、聞き合ったりしてみてください。

とり戻す力は生活力！
それでも家庭での学習、きついですがね。親子でいると、どうしても親が子どもに「教える」になってしまいます。そうすると、そんなつもりはないのに、けんかになりがちに。「どうしてそう思ったの？」「どんなふう考えたの？」と親が聞き手に回り、「なるほど」と言った方がけんかにならずにすむようです。教師も同じで、子どもがたくさん語る授業の方がよい授業と

言われています。が、つり家庭で学習する子ども、さまざまな事情でそうできない子の格差が心配です。知識量だけでなく、そのままだらぐ格差が残るかもしれません。でも、生活力があれば取り戻せるのでは、と考えています。

中学校編

「自立」をテーマに

矢口夕子さん(中学校教諭)

中学生に接するときの大事なポイントが、「思いを聞く」です。中学生は、「自立」を習得する時期です。学校から出されている課題も、親と一緒にやるものではなく、「一人でおこなう」ことを前提に出されています。とくに2、3年生の学習は難しくなります。

「もう一回やってみたら、本当にわかったかどうかが、わかるよね」と、課題にもう一度とくんでみたり、中1だったら、小学生のときの勉強の復習でもよいと思います。「やった」「わかった」を大事にしましょう。

ここでも基本は「どう？」と聞くことです。どんなにグダグダしていても、「もういやだ」となっているとき、中学生は根っこはまじめです。

保護者は、勉強よりも生活面を支えることを意識してはどうでしょうか。それでもテーマは「自立」です。たとえば、昼食づくり。「作る」とき、何を大事にするのかを話し合ったり、いつもは何を大事にして作ってきたかを話してみたり。思い切って「任せる」という経験も、自立にむけて大事なことです。

自分で一日をどう過ごすか、という計画を立てましょう。でも、たとえその通りにできなかったとしても、責めるのではなく、「どうだった？」と聞くことを大事にしてください。

「もう一回やってみたら、本当にわかったかどうかが、わかるよね」と、課題にもう一度とくんでみたり、中1だったら、小学生のときの勉強の復習でもよいと思います。「やった」「わかった」を大事にしましょう。

ここでも基本は「どう？」と聞くことです。どんなにグダグダしていても、「もういやだ」となっているとき、中学生は根っこはまじめです。

保護者は、勉強よりも生活面を支えることを意識してはどうでしょうか。それでもテーマは「自立」です。たとえば、昼食づくり。「作る」とき、何を大事にするのかを話し合ったり、いつもは何を大事にして作ってきたかを話してみたり。思い切って「任せる」という経験も、自立にむけて大事なことです。

自分で一日をどう過ごすか、という計画を立てましょう。でも、たとえその通りにできなかったとしても、責めるのではなく、「どうだった？」と聞くことを大事にしてください。

自分で一日をどう過ごすか、という計画を立てましょう。でも、たとえその通りにできなかったとしても、責めるのではなく、「どうだった？」と聞くことを大事にしてください。

自分で一日をどう過ごすか、という計画を立てましょう。でも、たとえその通りにできなかったとしても、責めるのではなく、「どうだった？」と聞くことを大事にしてください。

自分で一日をどう過ごすか、という計画を立てましょう。でも、たとえその通りにできなかったとしても、責めるのではなく、「どうだった？」と聞くことを大事にしてください。

自分で一日をどう過ごすか、という計画を立てましょう。でも、たとえその通りにできなかったとしても、責めるのではなく、「どうだった？」と聞くことを大事にしてください。

自分で一日をどう過ごすか、という計画を立てましょう。でも、たとえその通りにできなかったとしても、責めるのではなく、「どうだった？」と聞くことを大事にしてください。

自分で一日をどう過ごすか、という計画を立てましょう。でも、たとえその通りにできなかったとしても、責めるのではなく、「どうだった？」と聞くことを大事にしてください。

自分で一日をどう過ごすか、という計画を立てましょう。でも、たとえその通りにできなかったとしても、責めるのではなく、「どうだった？」と聞くことを大事にしてください。

自分で一日をどう過ごすか、という計画を立てましょう。でも、たとえその通りにできなかったとしても、責めるのではなく、「どうだった？」と聞くことを大事にしてください。

自分で一日をどう過ごすか、という計画を立てましょう。でも、たとえその通りにできなかったとしても、責めるのではなく、「どうだった？」と聞くことを大事にしてください。

女性ニュース

2020. 4. 23

国が補償すべき82%

共同通信社の調査(10~13日実施)で、新型コロナ感染症への対応として、休業要請に応じた企業や店舗の損失を国が「補償すべきだ」との回答が82%。安倍内閣支持率は40.4%で、不支持率が43%と上回った。

消費税5%署名23万国会提出

新型コロナウイルス対策や経済対策として消費税5%への減税が求められるなか、新婦人も参加する消費税廃止各界連絡会は17日、署名を提出。この間全国で集められた署名は23万3816人分(新婦人は4万795)で、清水忠史衆院議員(共産)が受け取った。

普天間基地でまた泡大量流出

10日、沖縄県宜野湾市にある米軍普天間基地から雨水用排水路を通して、

発がん性の有機フッ素化合物PFOSが含まれる消火剤の泡が14万3830リットル流出した。泡は保育園や住宅地など広範囲に飛散し、同市消防署が除去作業を試みたが、量が多すぎて回収しきれず。米軍は自らの基地内は泡除去、しかし現場では沖縄防衛局とともに回収作業を見ていただけ。昨年12月にも漏出事故が起きており、住民の怒りは沸騰している。沖縄県は事故原因の究明や詳細の公表、PFOS等を含まない泡消火剤への早期の切り替え、実効ある再発防止策徹底などを厳しく求めた。

DV・虐待対策を

新型コロナ対策に伴う緊急事態宣言のもと、厚労省は児童虐待やDVへの対応を都道府県など自治体に求めた。具体的には、支援対象者の状況の変化の確認、児童虐待の通報にかかわる周知、児童相談所など関係機関の連携強化など。民間の支援団体や新婦人も政府に対策強化を要請していた。

熊本地震から4年

新婦人熊本県本部副会長
上田たか子(益城町在住)

被害の大きかった益城町では、災害公営住宅(671戸)への転居が進んでいます。これまでの被災者の暮らしがあった仮設住宅は、老朽化とともに空室が目立っています。

依然として県内には3000人余りの方が仮住まいを余儀なくされており、その半数が益城町です。首を長くして待ち望んだ災害公営住宅は家賃が、数年後には高額になり、抽選では当たったが「辞退」せざるをえない町民が約1割いると聞きました。

さらに、県と町が推し進める約300億円をかけての「県道4車線化」と「区画整理」の2大大型公共事業が、町の中心地を掘り返し、住宅再建と暮らしの復興を阻

んでいます。

熊本地震で私たちは、被災者への国と県・町からの公的な支援を受ける当事者になり、憲法や法律を身近に感じる尊い経験をしました。

身近で切実な要求と支援が結びつくように、内閣府や県に何度も要請をしました。その成果は、2019年の台風15号で「一部損壊にも公的な支援の実現」という形で初めの一歩を踏み出しましたが、運動はまだまだ続けていかなければと決意しています。



地元のテレビ報道(14日)